

研究拠点形成事業 平成 29 年度 実施計画書

A. 先端拠点形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	名古屋大学
(アメリカ)拠点機関：	コロンビア大学
(フランス)拠点機関：	コレージュ・ド・フランス
(ドイツ)拠点機関：	ベルリン自由大学

2. 研究交流課題名

(和文)： テキスト学による宗教文化遺産の普遍的価値創成学術共同体の構築
(交流分野：人文学)

(英文)： Academic Consortium for Creating the Value of Religious Cultural Heritage through Text Studies.
(交流分野：Humanities)

研究交流課題に係るホームページ：<https://www.lit.nagoya-u.ac.jp/cht/> (今後作成予定)

3. 採用期間

平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 34 年 3 月 31 日 (1 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：名古屋大学

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)：総長・松尾清一

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：人文学研究科・教授・阿部泰郎

協力機関：筑波大学、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館
・国立歴史民俗博物館・国際日本文化研究センター、東京大学

事務組織：名古屋大学研究協力部研究支援課・文系事務部

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：アメリカ

拠点機関：(英文) Columbia University

(和文) コロンビア大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Faculty of East Asia, professor, Haruo SHIRANE

協力機関：(英文) Harvard University

(和文) ハーバード大学
経費負担区分 (A型) : パターン1

(2) 国名 : フランス

拠点機関 : (英文) College de France

(和文) コレージュ・ド・フランス

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Institute of Advanced Japanese Studies,
Professor, Jean Noel ROBERT

協力機関 : (英文) Paris Diderot University, Strasbourg University, EFEO, INALCO

(和文) パリ第七大学、ストラスブール大学、極東学院、東洋言語文化学院

経費負担区分 (A型) : パターン1

(3) 国名 : ドイツ

拠点機関 : (英文) Free University of Berlin

(和文) ベルリン自由大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of History, Professor, Jochem
KAHL

協力機関:協力機関: (英文) University of Heidelberg, University of Hamburg, Austrian
Academy of Science

(和文) ハイデルベルク大学、ハンブルク大学、オーストリア・アカデミー

経費負担区分 (A型) : パターン1

5. 全期間を通じた研究交流目標

○人類が創出した文化の所産は、その普遍的価値を等しく認められ、尊重されるべき共通の遺産だが、その頂きに立つ宗教の生み出し、その象徴となる遺産は、過去にも、とりわけ現在の世界の状況において、深刻な危機に瀕している。多様性を認め、異質な文化と共生することを理想とする社会にあって、人文学が果たすべき責務のひとつに、人類の宗教文化の遺産についての普遍的な意義を、その情報を含め、諸研究機関の連携による分野間の学知の総合によって見出し、提言する学術創成が求められる。そのための総合的な研究の蓄積と理念において領導する欧米の中核拠点大学との、国際共同研究が必要とされている。○世界各国の文化機関（博物館・美術館・大学・図書館等の）所蔵分を含めて、各地に伝えられる宗教が生み出した文化遺産に対する総合的なテキスト学による探査と研究を推進する先端的国際研究拠点を、名古屋大学文学研究科の「人類文化遺産テキスト学研究センター」(CHT)に構築する。このCHTでは、日本/アジアの宗教文化遺産のアーカイブス化と探査で挙げた大きな成果を、まずコロンビア大学、コレージュ・ド・フランス、ベルリン自由大学との成果の共有を通じて連携し、中堅・若手研究者の相互交流による広域な大学間および文化機関間の研究集会や国際ワークショップ開催による“宗教テキスト文化遺産”研究コンソーシアムの活動を立ち上げる。○この国際学術連携を通じて、5年間

で、日本を中心に（アジア／ヨーロッパ／中東等を包摂した）世界的な宗教テキスト文化遺産の普遍的価値の認識を共有し、そのアーカイブス化を通じた情報共有と、人文学における宗教テキスト研究が有する画期的な学術上の発展可能性を、最先端の国際共同研究によって提起する。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 29 年度から開始。

7. 平成 29 年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

世界的な宗教文化遺産のテキスト学による研究と、学術上の社会実践を担う学術共同体を構築する端緒となるための本事業の、初年度の取り組みは、まず名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター（CHT）と欧米三拠点機関それぞれとの、5 年間にわたる研究交流計画を具体的に策定することから開始される。計画の中心は、四機関を中軸とした「宗教文化遺産テキスト学」の学術共同体発足に向けてのロードマップである。この行程を如何に実現化させていくか、そのヴィジョンを共有するために、各機関のコーディネーターと共同研究・開催の国際研究集会・研究者・院生の派遣や受入について協議し、四機関および関連研究機関が相互に有機的な連携を図れるように調整を行う。今年度は、まずコロンビア大学から名古屋大学 CHT に研究者 1 名を 5 月から 8 月にかけて受け入れ（別経費による）、共同研究を発足させると共に国際ワークショップを企画する。コレージュ・ド・フランスとは 10 月に国際研究集会を開催し、日本から研究者 20 名を派遣すると共に、米国から研究者を 5 名招聘する。また、ベルリン自由大学には年度内に日本から研究者 2 名を派遣する予定である。この他、関連研究機関（ストラスブール大学、ハイデルベルク大学、ハンブルク大学およびオーストリア科学アカデミー等）にて年度内に開催される研究集会・ワークショップ等に日本から研究者を派遣し、今後の機関相互の研究交流を促進し媒ちとなることに努める。加えて、南山大学宗教文化研究所による宗教文化セミナーに各国の大学院生を招くことにより、各研究者の指導する院生間の交流も発進する。以上が実施されることによって、各拠点および連携機関との恒常的な研究交流と、より重要な学術上の目標を共有する基盤を作ることを目指す。

<学術的観点>

テキスト学による宗教文化遺産の普遍価値を、その歴史・考古学的文脈上の考察や言語・文学理論からのアプローチ、図像学やメディア論など、多角的かつ諸分野の融合により連携して取り組もうとする本事業の、初年度における活動は、以下のように一対一の共同研究から始められる。まずコロンビア大学と宗教文化遺産に関するテキスト学・文化論的アプローチによる共同研究を発足させ、コレージュ・ド・フランスでは、宗教テキスト遺産としての「論義」を主題とした国際研究集会を開催し、ベルリン自由大学には研究者を派遣して今後の共同研究および研究集会の計画を立案する打合せを研究会で行う。これに加え、宗教文化遺産の実地調査を兼ねた国際ワークショップを随時行うことにより、今後 5

年間の研究機関を通じて相互の間に形成される必要のある、世界的な宗教文化遺産に関する（批判的な問題提起を含む）共通認識を醸成する一ステップとする。遺産の対象領域だけでなく、国毎にも、各学問分野毎にも異なるディシプリンに拠って形成される認識には当然のことに差があり、対象に向き合う方法や技術、データ化した資料の分析や解釈、論述や報告におけるアカデミックな作法までが多様ななかで、いかに成果を共有する学術上の地平を見出し、共同して切り拓いていくかが問われている。特に宗教に関わる遺産は、紛争と対立の標的となるケースが多く、歴史的な経緯についての正確な知識の共有を含め、自覚的に文化的多様性を尊重しつつ（常に少数者の立場に配慮して）調査研究上の共通言語を探っていくことが求められよう。

<若手研究者育成>

本課題事業の特色ある活動のひとつが、南山大学宗教文化研究所と CHT との共同による「宗教文化セミナー」を毎年 1 回、期間中 5 回開催することである。毎年異なるテーマの許に日本および世界の宗教文化に関わる研究に取り組む、海外大学の大学院生に呼びかけ、公募によって報告者を毎回 5 名選定し名古屋へ招き、3 日間のセミナーと宗教文化遺産ワークショップを、同様な研究に取り組む日本の大学院生や若手研究者と共同で体験する企画である。こうしたセミナーを連続して積み重ねていくことにより、広く各分野の宗教文化を学ぶ院生が、文化遺産の重要性やそれが抱える課題を発見・自覚し、また最新のテキスト学を含む先端的研究や他の異なる学問風土の成果を知ることで、知的刺激を受けて自己の研究水準向上にフィードバックする効果が期待される。何よりも、共通したテーマの許に集うことによって生ずる交流を通じて、将来の宗教文化遺産を介した学術に携わる若者同志の連帯と連携が生みだされること、そのなかに宗教文化の多様性の相互の尊重と遺産の普遍価値の共有を求める動きが生ずることを期すものである。研究者の派遣と受け入れに関しても、名古屋大学 CHT にコロンビア大学から中堅研究者を短期（2～3 ヶ月）受け入れるが、その際に相互の大学院生による学術交流会やワークショップを主催・支援していただくようにスケジュールを組み立て、またベルリン自由大学を始め、いくつかの研究機関に研究者を短期派遣する際にも、必ず若手研究者を択ぶか同行するように配慮し、かつ派遣先の院生・若手研究者と交流する機会を設けることとする。これらの機会を契機として、5 年間で機関相互の院生・若手研究者が、その成長に随ってより豊かな業績を挙げるだけでなく、自ずから互いの分野の達成を享けて領域複合的な研究に挑戦するような環境を作ることが望めよう。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

名古屋大学 CHT では、研究集会・セミナー・講演会等は原則全て公開しており、市民の参加をすすめ、成果物としての報告書等に限らず、研究の過程も大部分が社会に開かれている。また、地域に伝承された宗教文化遺産に関する調査・研究の成果は、中部・東海・北陸・関西を中心に自治体や各文化教育機関と連携して公開フォーラムや、展覧会を企画・開催することにより、絶えず社会に還元している。本事業においても、科研（S）を基盤として、平成 30 年に東京・神奈川を中心とした五研究機関（うち二機関は人間文化研究機構所属）による連携展示「列島の祈り—日本の宗教儀礼とそのテキスト遺産」を企画してお

り、今後はその準備段階として国際的な共同研究ネットワークの許でその展示資料の研究や新たな成果の発信に、各拠点の研究者および大学院生からの協力が期待される。

8. 平成29年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 29 年度	研究終了年度	平成 31 年度
研究課題名	(和文) 宗教文化遺産のテキスト学—境界とライフサイクル (英文) Borders and Lifecycles : The religions cultural heritage by text studies.				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 阿部泰郎、名古屋大学人文学研究科、教授 (英文) ABE Yasuro, Nagoya University, Graduate School of humanities, Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Haruo SHIRANE, Columbia University, Faculty of East Asia, professor, professor				
29年度の 研究交流活動 計画	<p>29年3月に日本側代表者がコロンビア大学で相手国側代表者と共同で行うセミナーを経て定めた具体的な計画に基づき、29年度5月から8月にかけて、拠点メンバーの一人であるマイケル・コモ教授が名古屋大学 CHT に派遣され(別経費による)、教授を中心に、日本および東アジアの宗教文化遺産の基盤となる宗教文化の諸課題に関する共同研究と、各地の宗教文化遺産ワークショップを行う。この過程で、大学院生による学術交流会などを含めて、共同研究の具体的課題が相互に提案され、若手研究者を中心にその課題に相応しい研究に取り組むメンバーを呼び、CHT において予備的な研究会を開催する。秋には南山大学宗教文化研究所で S-2 を開催し、これに付随し、本事業経費外ではあるが「花祭といざなぎ流」研究セミナーという国際ワークショップを開催する予定である。また、これにはコロンビア大学から研究者ないし S-3 の公募により選出された大学院生が派遣され、参加する。</p>				
29年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	<p>コロンビア大学の拠点研究者が、その専門分野である日本と東アジア宗教の研究を通して名古屋大学 CHT において研究交流活動することにより、宗教文化遺産に関する最も核心的で先端の研究交流が果たせる求心力を生じ、彼とその指導の下の院生が活動することで、全国の東アジア宗教史の研究者と院生が、そのセミナーやワークショップに集うことになり、そこで提示される課題に応じて参画しようとする新たな研究上のネットワークを喚起する効果が得られよう。また、本共同研究に掲げた課題は、人間文化研究機構で拠点代表者が示した課題と共通し発展させたもので、やがて平成30年度末にコロンビア大学にて名大 CHT と共同で本事業の一環として開催される国際研究集会において、その本格的な成果を問い、更に次の段階の宗教文化遺産の共同研究に展開する基盤を用意するものである。</p>				

整理番号	R-2	研究開始年度	平成 29 年度	研究終了年度	平成 32 年度
研究課題名	<p>(和文) 宗教テキスト遺産としての聖なることば (ヒエログロシア)</p> <p>(英文) The hierogram as religions heritages by text studies</p>				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	<p>(和文) 阿部泰郎、名古屋大学人文学研究科、教授</p> <p>(英文) ABE Yasuro, Nagoya University, Graduate School of humanities, Professor</p>				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	<p>(英文) Jean Noel ROBERT, College de France, Institute of Advanced Japanese Studies, Professor,</p>				
29年度の 研究交流活動 計画	<p>準備段階 (平成 28 年) で、ロベール教授が名古屋大学 CHT に客員研究者として滞在した際に行った研究会議で合意した計画案にもとづき、平成 29 年 10 月に、コレージュ・ド・フランスにおいて、日本仏教の宗教思想言語活動の基盤となり再生産・継承の機構ともなる論義と、それを元に生みだされた思想文化上の運動である宗論をめぐる研究集会 S-2 を開催する。これには、日本側の代表者をはじめ、日本仏教の各宗派の論義や宗教文化の問題に精通した研究者が参加し、特に相手国となっているアメリカ在住の仏教学研究も参加する。この集会での報告と議論を経て、報告書はロベール教授が責任者を務めるフランス語版仏教百科全書『法宝義林』の特別篇「論義」版として編集・刊行される予定であるが、本研究集会はその編集会議ともなる。また、本セミナー開催のために平成 29 年 6 月に、コレージュ・ド・フランスにおいて研究代表者及び外 2 名にて予備ワークショップを行う。</p>				
29年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	<p>この集会 (S-2) で報告・議論された課題を元に、更に仏教を超えた宗教言語全般にわたる〈聖なることば〉(ヒエログロシア) をめぐる諸問題を宗教テキスト遺産として世界的に共有するための取り組みに向かうことができる。その成果は、本事業の過程で予定する、再度のコレージュ・ド・フランスでの研究集会「宗教文化遺産としてのヒエログロシア (仮題)」に向けて生かすことになる。また、この共同研究の成果を元に、コロンビア大学、ベルリン自由大学等との横断的な総合共同研究の立ち上げを目指す。</p>				

8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「文化遺産としてのアーカイヴス」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “The archives as cultural heritages “
開催期間	平成 29 年 6 月 2 日 ~ 平成 29 年 6 月 3 日 (2 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) オーストリア、ウィーン、アジア文化研究所
	(英文) Austria, Vienna, Institut für Kultur und Geistesgeschichte Asiens
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 阿部泰郎、名古屋大学人文学研究科・教授
	(英文) ABE Yasuro, Nagoya University, Graduate School of humanities, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) Bernhard Scheid, Austrian Academy of Sciences, Professor
備考欄	開催期間は、セミナー開催予定期間

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (フランス)	
		A.	B.
日本 〈人／人日〉	A.	4 / 53	
	B.	1	
オーストリア 〈人／人日〉	A.	1 / 0	
	B.	3	
フランス 〈人／人日〉	A.	1 / 10	
	B.	2	
合計 〈人／人日〉	A.	6 / 63	
	B.	6	

A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）

B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>宗教文化遺産の創成・保全・継承をめぐることは、多くの課題が今後提起されよう。そしてその基盤となるアーカイヴスにおいて、その諸問題は端的に集約されるであろう。宗教文化遺産をめぐる今後の国際的・普遍的価値創成を目指す端緒として、アーカイヴスをめぐる文化創成についての国際的な研究および実践に取り組み、その成果を共有する。またこうした研究と実践の積み重ねと研究連携を通して、宗教文化遺産による横断的な学術共同構築を目指す。本企画は、歴大な蓄積のある諸民族調査資料のアーカイヴス化に取り組む南山大学研究者を仲介として、日本の宗教文化遺産のうち、神道に関する分野領域のアーカイヴスに従事するオーストリアと日本研究者（CHT）と國學院大學の研究者が、それぞれ具体的なアーカイヴス化とその成果の報告を行う。ウィーン大学は民族学を中心とする日本研究のヨーロッパにおける中心的センターであった歴史があり、その研究の蓄積をもとに、現在は神道の分野で日本研究が継承されている。そして本拠点形成事業の一端であるベルリン自由大学、ハイデルベルク大学、ハンブルク大学と学術的に連なり、ドイツ語圏の一環としての密接な研究連携がある。ここに、第三国であるウィーンにおいて本ワークショップを開催する必要性が求められ、ドイツを拠点とする研究展開へ発展させる。なお、この後パリへ移動し、コレージュ・ド・フランスにおいて、フランス側コーディネーターと10月に予定されている学会の予備的ワークショップを行う（6月7日・8日）</p>
<p>期待される成果</p>	<p>オーストリアと日本において、長期間にわたりアーカイヴス化に取り組んだ民族誌資料と神道資料（オーストリア側にとっては神道も日本民族資料である）の宗教文化遺産をめぐる調査研究の歴史的な経過と、その達成・成果としてのアーカイヴスの輪郭を相互に認識する。これによって、ドイツ語圏のみならず、国際的な宗教文化遺産に関するデータ共有とアーカイヴス化のあらゆるケースが直面し露呈する諸課題を克服するためのモデルを提供することが期待される。またこれ以後のドイツとの拠点形成の一環である、ハンブルク大学の国際写本学プロジェクトとの連携・共同研究の基盤となる。</p>
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>南山大学国際文化学部吉田早悠里准教授を仲介役として、CHTを主催として、ウィーン・オーストリア・アカデミーのB・シャイド教授が共催し、会場を提供・オーストリア側参加メンバーの手配、宿泊、エクスカージョンのハイトリンゲン修道院見学など、プログラムの設定を担当していただく。</p>

開催経費 分担内容	日本側 名古屋大学	内容 日本側参加者の旅費・滞在費負担。報告論文等のドイツ語訳等・翻訳・通訳費用の負担。
	(オーストリア) 側	内容 会場と見学の設定、報告者・案内者の選定、ワークショップ・見学の運営
	(フランス) 側	内容 予備ワークショップのための会場提供、ワークショップの運営

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「宗教文化遺産としての論義とそのテキスト」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “The Rongi and texts which consider as a religions cultural heritage “
開催期間	平成 29 年 10 月 10 日 ～ 平成 29 年 10 月 12 日 (3 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) フランス、パリ、コレージュ・ド・フランス
	(英文) France, Paris, College de France
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 阿部泰郎、名古屋大学人文学研究科・教授
	(英文) ABE Yasuro, Nagoya University, Graduate School of humanities, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) Jean Noel ROBERT, College de France, Institute of Advanced Japanese Studies, Professor,
備考欄	開催期間は、セミナー開催予定期間

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (フランス)	
	A.	B.
日本 〈人／人日〉	A.	14 / 53
	B.	4
フランス 〈人／人日〉	A.	4 / 3
	B.	4
アメリカ 〈人／人日〉	A.	2 / 10
	B.	2
合計 〈人／人日〉	A.	20 / 66
	B.	10

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)
 B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>仏教における言説－儀礼という宗教テキスト次元での文化遺産というべき論義（ディベート）の、とくに日本における歴史とその果たした役割、意義を広く文化的にとらえ、問題化する。とくに、宗派・寺院の内部で儀礼的に完結する論義にとどまらず、宗派間での対論として自宗の教義の真正性・正統性や優劣を争う宗論や、また相互の位置や順序体制を承認するための諸宗論の側面にも注目し、論義によって生みだされた論理の文法や知識および儀式・芸能などの文化と、宗論や諸宗論の影響の許で生みだされた諸文芸などにも注目し、その普遍的意義を問う。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>仏教学をはじめ諸宗教とその言語（ヒエログロシヤ）に精通し、広汎な人文学諸分野との学術研究との接点をもつ、拠点コーディネーターのロベール教授の許で、日本の伝統的仏教学・宗学と文学研究者が論義・宗論という文化論的にも問題関心の接点となる課題の下に、アメリカのこの分野でのベテランと新進の研究者と一堂に会して集中的に議論することにより、宗教文化遺産としての論義への認識に新しい展望が拓かれることが期待される。なお、この研究成果は、ロベール教授の編により仏教百科全書『法宝義林』の分冊として刊行され、広く学界に提供される。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>コレージュ・ド・フランスにおいて例年開催される国際コロキウムの一環として予算措置され、ロベール教授が主催者として国内外から報告者およびディスカッサントを招聘するため、その運営はフランス側拠点に委ねられる。名古屋大学 CHT は、共催としてこれに参加する報告者を日本側で組織し、本事業の一環として参加研究者とその他の参加者の渡航をサポートする。なお、日本在住のフランス人研究者（国文学研究資料館所属）にも、その運営に協力してもらうため、その旅費・謝金は日本側が負担する。</p>	
<p>開催経費 分担内容</p>	<p>日本側 名古屋大学</p>	<p>内容 日本側参加者の旅費・滞在費負担。報告論文等のフランス語訳等・翻訳・通訳費用の負担。</p>
	<p>(フランス) 側 コレージュ・ド・フランス</p>	<p>内容 フランス国内の参加研究者およびディスカッサントの招聘、アメリカからの参加研究者および報告者の招聘、会場・開催費会議費等の負担。</p>

整理番号	S-3
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「日本宗教文化セミナー」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Religious Cultural Seminar in Japan “
開催期間	平成 29 年 11 月 23 日 ～ 平成 29 年 11 月 25 日 (3 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、名古屋、南山大学 (英文) Japan, Nagoya, Nanzan University
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 阿部泰郎、名古屋大学人文学研究科・教授 (英文) ABE Yasuro, Nagoya University, Graduate School of humanities, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文)
備考欄	開催期間は、セミナー開催予定期間

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 ()	
	A.	B.
日本 〈人／人日〉	5 / 15	
(公募のため 国籍未定) 〈人／人日〉	0 / 0	
〈人／人日〉	5	
合計 〈人／人日〉	5 / 15	
	15	

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)
B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>宗教文化遺産に関する人文学諸分野の若手研究者の関心とその研究への取り組みを支援し、学術水準の向上と問題の共有を目指すため、特に日本の宗教文化を対象として学ぶ海外大学院の博士課程前期課程・後期課程の大学院生を参加者として、国際公募により優れた研究を日本語で報告し討論を行うことのできる報告者を5名程度選出し、研究参加者として加え、日本の同分野を研究する大学院生、ポストドクターや研究者と討議することにより、国際的な宗教文化全般の学術研究の交流と将来の研究交流の展開を目指す。なお、本セミナーは、本拠点形成事業期間の5年間毎年1回開催し持続させる。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>海外の人文系有力大学院で学び、東アジア特に日本の宗教文化を専攻し、諸分野に活躍する研究者を目指す優秀な人材を、本セミナーによって日本で報告と討議の機会を与えることを通じて育成し、彼等にとって飛躍の契機となることが期待される。また、セミナーの一環として、日本の宗教文化の遺産や伝承の場に実地について学び、体験するワークショップもプログラムとして用意されており、これらに参加することを通じて、生きた日本の宗教文化遺産の姿を知ることは貴重な体験となるだろう。かつは、日本の大学院生や若手研究者との交流を深め、発展させる場としても、有効な成果をあげられよう。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>実施運営は、南山大学宗教文化研究所とそのメンバーに委ね、CHT および研究代表者（日本側コーディネーター）がこれを補助する形をとる。すなわち、テーマ設定、国際公募と選定、報告者の招待、セミナーの運営等は南山大学宗教文化研究所で行い、コーディネーターが助言する。付随して行われるワークショップは、CHT が責任をもって開催・運営する。</p>	
<p>開催経費 分担内容</p>	<p>日本側 名古屋大学</p>	<p>内容 ワークショップ開催費（車輜代・謝金・食費等） 報告者旅費・滞在費・日当等。国際公募・選定にかかる費用、資料作成代、会議費</p>

整理番号	S-4
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業 宗教文化遺産としての西行「旅する詩人西行」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Saigyō : A poet in Journey “
開催期間	平成 29 年 8 月 29 日 (1 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) ポルトガル、リスボン、リスボン大学 (英文) Poreogal,Risboa,University of New Risboa
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 阿部泰郎、名古屋大学人文学研究科・教授 (英文) ABE Yasuro, Nagoya University, Graduate School of humanities, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) Alexandra Curvelo da Silva Campos, Associate Professor Departamento de Historia da Arte
備考欄	開催期間は、セミナー開催予定期間

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (ポルトガル)	
		A.	B.
日本 〈人／人日〉	A.	6 / 53	
	B.	12	
フランス 〈人／人日〉	A.	4 / 3	
	B.	4	
アメリカ 〈人／人日〉	A.	2 / 10	
	B.	2	
合計 〈人／人日〉	A.	12 / 66	
	B.	18	

- A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）
B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>日本では歌人・僧侶として広く知られた西行（1118～1190）は、文学史のみならず、民間伝承の世界に根付いて、実際の生涯で諸国を修行した以上に、全国に旅する西行（サイギョウ）の伝説が生きている。こうした西行像を創りあげた文化の運動全体を、ひとつの文化遺産として認識するモデルととらえ、そこに民間信仰を含む宗教が如何に関与するかを探ることは、本課題にとっても重要な挑戦的視点であろう。ヨーロッパ日本学協会（EAJS）は、ヨーロッパ諸国及びアメリカ等の海外日本研究者による総合的な人文学の大規模国際学会である。この EAJS 大会は、当該拠点形成相手国の全てが関与する横断的な学术交流の場として最適な機会であるため、研究成果のより効果的な発信効果と相互連携の強化が期待される。その EAJS 大会プレカンファレンスのフォーラムとして、国際的な比較の視野の許に、西行を「旅する詩人」の典型として、世界の遍歴・巡遊する歌びとの系譜の中に置き、その普遍性と特色を探究する試みを、各国から集う日本研究者に提示する。なお、本フォーラムは大会の単なる分科会以上のステータスをもつプレカンファレンスとして、学会に相対的に独立した主体的な企画によるものであり、学会と不可分一体な卓越した分科会である。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>このフォーラムでは、西行や和歌の専門研究者だけでなく、宗教文化テキストの観点から「西行」の文化事象の“遺産”化をとらえ、更にスペイン、ポルトガルやイタリア文学などラテン・イベリア文化研究側から比較してとらえるような、多角的な論点を各専門研究者から提示することによって、より豊かな「西行」の文化史とその記憶遺産的意義を、EAJS に集う研究者やポルトガルの学生に示すことができよう。それによって、本拠点形成事業の活動を、更に多方面にアピールすることが期待される。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>フォーラムを共同して企画し、運営する参加研究者と近本謙介准教授が、EAJS 事務局と緊密に連携し、フォーラム開催が公式に認められた。提供された会場で両名が組織した参加者（別途、各人の参加申請書を作成、近本パネルはアメリカ 1 名・エストニア 1 名、日本側 3 名分）をパネリストとして 2 時間の枠で開催する。</p>	
<p>開催経費 分担内容</p>	<p>日本側 名古屋大学</p>	<p>内容 日本側参加者（参加研究者 5 名の旅費・滞在費を負担、および大会参加費（学会費）を支出する。） 報告内容の翻刻、資料作成費</p>

	(ポルトガル) 側 リスボン大学 (EAJS 事務局)	内容 会場費 (運営にかかる諸経費)
--	-----------------------------------	-----------------------

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

共同研究、セミナー以外の交流（日本国内の交流を含む）計画を記入してください。

所属・職名 派遣者名	派遣時期	訪問先・内容
名古屋大学人文学研究科、教授、周藤芳幸	平成29年10月～12月	ドイツ・ベルリン自由大学 講演及び共同研究打合せ
名古屋大学人文学研究科、准教授、安川晴基	平成29年10月～12月	ドイツ・ベルリン自由大学 講演及び共同研究打合せ
名古屋大学人文学研究科、教授、木俣元一	平成30年1月～3月	ドイツ・ハイデルベルク大学 国際ワークショップ参加 フランス・ストラスブール大学 共同研究打合せ
名古屋大学人文学研究科、博士研究員、百合草 真理子	平成30年1月～3月	ドイツ・ハイデルベルク大学 国際ワークショップ参加 フランス・ストラスブール大学 共同研究打合せ

8-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応

該当なし

9. 平成29年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派 派遣	日本 <人/人日>	アメリカ <人/人日>	フランス <人/人日>	ドイツ <人/人日>	合計 <人/人日>
日本 <人/人日>		20/120 (2/20)	17/146 (4/40)	2/20 (2/20)	39/286 (8/80)
アメリカ <人/人日>	(1/90)		(5/25)	(5/25)	0/0 (6/115)
フランス <人/人日>	(1/360)	()			0/0 (1/360)
ドイツ <人/人日>	(2/60)	(1/60)	(1/10)		0/0 (4/130)
合計 <人/人日>	0/0 (4/510)	20/120 (3/80)	17/146 (10/75)	2/20 (7/45)	39/286 (19/685)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

9-2 国内での交流計画

15/90 <人/人日>

10. 平成29年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	50,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	12,501,000	
	謝金	478,000	
	備品・消耗品 購入費	100,000	
	その他の経費	250,000	
	不課税取引・ 非課税取引に 係る消費税	1,021,000	
	計	14,400,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		1,440,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		15,840,000	